



農業総合センター

農業研究所 NEWS

新小麦「さとのそら」特集

これまで茨城県の小麦品種は、9割以上が農林61号でした。しかし、今年度から新しい奨励品種「さとのそら」が、県内小麦栽培面積の約半分の2千ヘクタールとなります。昨年が330ヘクタールでしたから6倍に増加し、小麦の主力品種となります。今号は「さとのそら」の特性と栽培のポイントを紹介します。

コムギ縞萎縮病に強い

長所の一つめは、ウイルス病であるコムギ縞萎縮病に強いと言う点です。かつて、農林61号が作れないほどの発病圃場でも、栽培が可能です（図1）。



図1 コムギ縞萎縮病発生ほ場における生育状況

二つめは、出穂期、成熟期が農林61号より2~4日早いことです。早く収穫できるので、梅雨の雨を避けることができます（下表）。

出穂期・成熟期

試験地	品種	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)
水戸	さとのそら	4.23	6.14
	農林61号	4.27	6.18
龍ヶ崎	さとのそら	4.17	6.05
	農林61号	4.19	6.07

三つ目は、稈長（背の高さ）が農林61号よりも10センチメートル短いので、倒伏しにくく（図2）、収量も多いことです（図3）。小麦粉や麺にした時の特性は、農林61号とほぼ同じで、優れています。

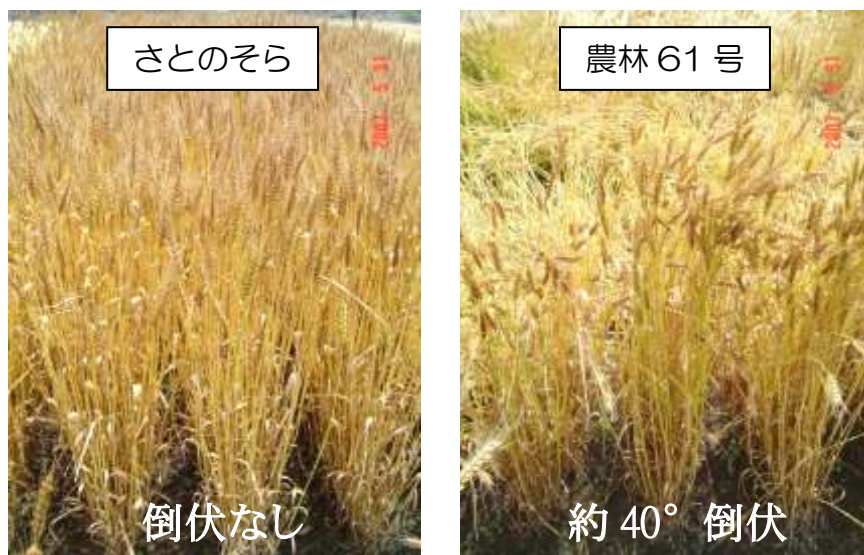


図2 成熟期の立毛状況

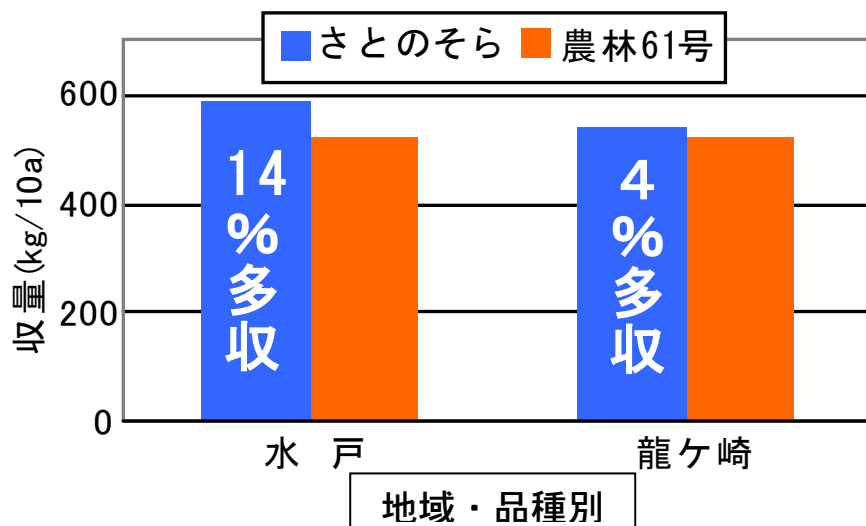


図3 農業研究所での収量比較

連作は避ける

コムギ縞萎縮病に強く、発病圃場でも栽培できるものの、小麦は連作することによって次第に収量・品質が低下します。できるだけ、連作は避けて下さい。どうしても連作となる場合でも、3年が限度です。

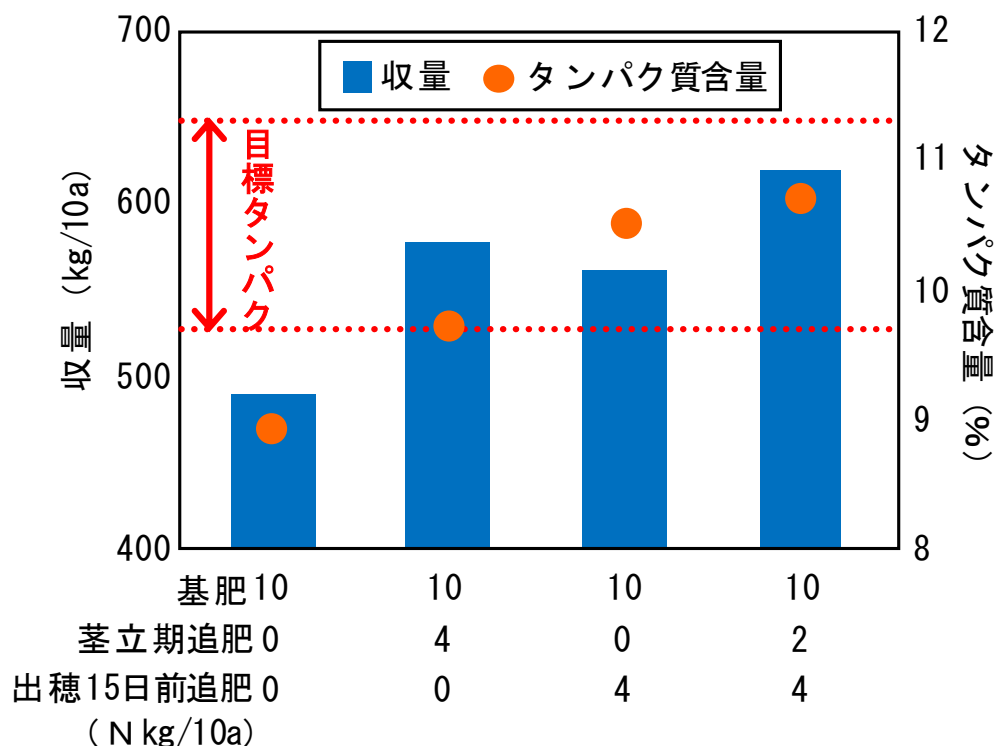


図4 「さとのそら」の施肥法と収量・タンパク質含量

(平成22年11月22日播種、龍ヶ崎市、中粗粒灰色低地土)
「農林61号」の慣行施肥は、基肥 N 8 kg/10a + 茎立期追肥 N 4 kg/10a

「さとのそら」は倒伏に強いので、肥料はやや多めに施用します。基肥窒素は10アール当たり6~7キログラムが基本ですが、砂質土壌など、地力が低いところは、9~10キログラムとします。追肥は茎立期(主稈長が2cmになったころ、3月上旬~中旬頃)に2~4キログラムとします(図4)。

出穂期以降の追肥は品質を落とす原因となるので避けてください。

種まきは11月中

10アール当たりの種の量は8キログラムが基本です。気をつけなければならないのは、種まきが遅くなると、「さとのそら」は収量の落ち込みが大きいことです。11月中に種まきが終了するように、計画を立てましょう。天候の影響で、やむを得ず12月以降になってしまったり、出芽が悪い場合は、種の量を5割程度増やして播きましょう。

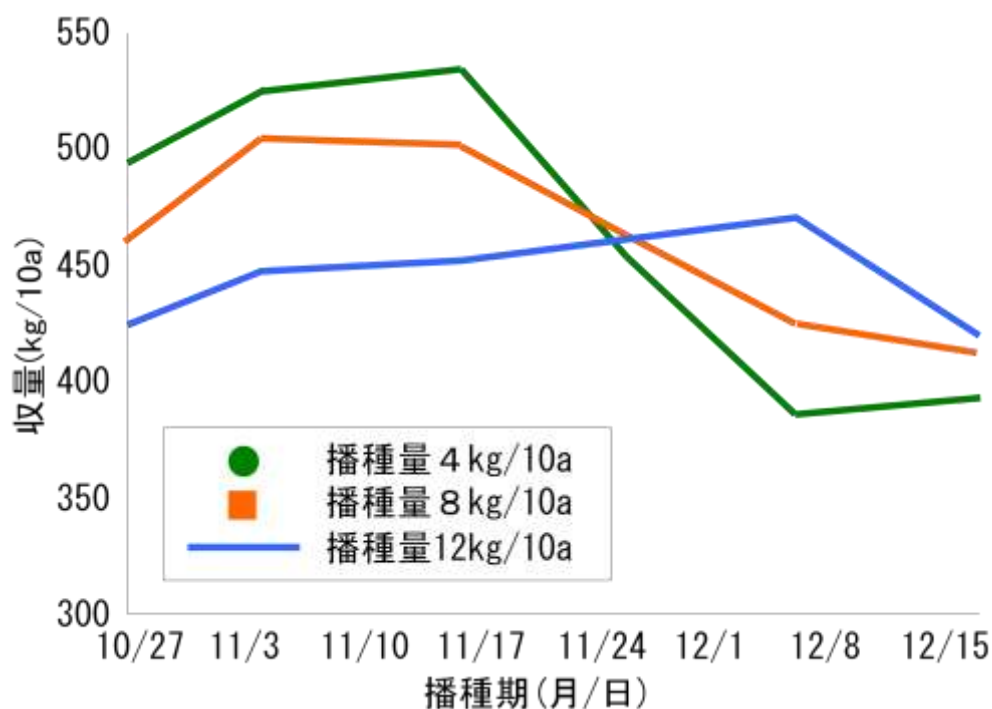


図5 「さとのそら」の播種期・播種量と収量

県産の評価向上へ

本県産小麦の品質評価は低く、価格も低迷しています。そのため、「湿害対策を十分に行う」、「連作しない」、「適期に種を播く」ことを基本とし、『さとのそら』の特長を十分活かして、収量・品質を向上させ、評価を高めることを目指しましょう。

あわせて、種の更新・消毒は必ずおこなうこと、麦踏みは年内、年明けに1～2回ずつおこない、開花期には赤かび病防除を徹底することが大切です。

トピックス

筑西市で麦類の湿害対策と「さとのそら」の栽培技術をテーマに主要課題現地検討会を開催

10月28日に麦の湿害対策と「さとのそら」の栽培技術をテーマに、第4回主要課題現地検討会を実施しました。検討会には、生産者、全農・JA等実需者、集荷業者、各関係機関等から91名の参加をいただきました。

今回の検討会では、麦の湿害回避対策として、疎水材心土充填機（モミサブロー）の現地圃場での施工実演と情報提供を行いました。また、小麦の新しい奨励品種として採用された「さとのそら」の普及に向け、農業研究所で取り組んでいる栽培技術確立試験や品質向上試験の結果をふまえた栽培技術について情報提供を行い、意見交換しました。また、平成23年播種版栽培マニュアル（湿害対策含む）を配布しました。

● 疎水材心土充填機（モミサブロー）を利用した麦の湿害対策

圃場では施工作業の実演や施工箇所を掘り、籾殻が充填されている状況を見てもらいました。

室内検討では、農業研究所が試験した桜川市の事例として、明渠とモミサブローの補助暗渠を組み合わせによる排水改善と麦・大豆の収量向上効果を報告しました。生産者からは、施工する際のトラクタの性能や土壌条件等について質問が出されました。

● 小麦新品種「さとのそら」の高品質安定生産技術

小麦新品種「さとのそら」の高品質安定生産技術については、本年までの結果を整理し、①減収防止のために適期播種（11月上旬）すること、②播種が遅れた場合は基準の1.5倍播種量を増やすこと、③目標タンパク質含量を得るための生育量に応じた施肥法等について報告しました。



現地検討：施工後の土中の籾殻を確認



室内検討の様子

お知らせ

・ 第五回主要課題現地検討会

場所：農業研究所（水戸）

日時：11月28日（月）
10:30～12:00

内容：ひたち34号の特性
と本年の試験結果
生産者が語るひたち34号
試食と意見交換

業務需要米として期待されるひたち
34号をテーマに実用化と普及を検
討します。



うまいもんどころ茨城

Twitterをやってる方は必見

@umaimon_ibaraki

更新がすごいです、是非フォローをお願い
します。

茨城県農林水産部販売流通課です。茨城の食の
魅力について呟いてまいります。

<http://www.ibaraki-shokusai.net/>

茨城県農業総合センター - 農業研究所

〒311-4203 水戸市上国井町3,402

TEL 029-239-7211 (代) FAX 029-239-7306

水田利用研究室

〒301-0816 龍ヶ崎市大徳町3,974

TEL 0297-62-0206 (代) FAX 0297-64-0667

Mail nouken@agri.pref.ibaraki.jp

URL <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/nourin/noken/>